

編 集 後 記

1951年お目出度う御座います。編集委員、醫學書院一同1950年は頑張りました。「病院」について尙御不満の點が多々ありだらうと思いますが、精一杯の仕事をして来たつもりです。今年も更に馬力をかける覺悟です。皆様方の御叱聲をおまちしています。

日本の病院も年々改善進歩の歩を進めて参りました。我方の努力が、幾分でも貢献して来たものと自負しております。何卒今年も十二分に本誌を御愛顧の上、御活用下さいますよう御願ひ致します。

☆

★

☆

新年號の巻頭に、最近アメリカの病院事情を視て來られた東醫務局長の原稿を掲載させて頂くことが出来ました。東局長は、アメリカにおいて主として病院事情を視察されましたが、板についた英語を驅馳して把握せられ、特にかの MacEachern とも親しく會談せられて來られたのですから、この稿は日本の病院の將來に對して、示唆される問題を含むものとして、注目すべきものでしょう。尙東局長は、病院に關する資料を澤山お土産に持つて歸つて來られておりますから、出来るだけ本誌で御紹介させて頂きたいと思つています。

守屋編集委員も、1月5日には續いて歸國される豫定ですが、氏は直接病院管理の諒議を受けておられますから、亦々お持ち歸りの資料と新知識で、今年の本誌を賑わして頂けるものと確信していますから御期待下さい。

★

☆

★

吉田委員の「病院概史」は14回となり日本病院史の明治時代に愈々入りましたが、偶々入手した山形市立病院濟生館の往時の木版畫を同時に掲載することが出来て、興味をそゝられますが、讀者お手持ちの日本病院史に參考になる文献又は資料がございましたら、編集室に御貸與願えれば、皆様に廣く紹介させて頂きたいと思ひますから宜敷く。「病院」の表紙に使用する各病院の寫眞も御送りいただければ幸です。

☆

★

☆

本號には、「小兒病室と附添問題」の座談會の記事を掲載致しました。この企畫のねらいは、勿論困難な小兒病室の附添廢止の問題で、病院側の努力を理解出来ると同時に、患者の兩親が結局その利益を認めている事實を集録致すことが出来ました。併せて、この座談會の進行は、病院とその利用者との協力、又は病院の協力者を作る運動の具體的例示として御參考になるような會の扱いを致しました事に御注意願ひたい。

★

☆

★

年月を経、年を経るに従つて、貴重な原稿が段々と集まつて來ようになりましたが、今年も是非共倍舊の御援助をお願い致します。(編者)

病院經理の理論と實際	山 元 昌 之	(滋賀大事務局長)	¥450円	〒45円
臨床 医家に必要な統計の常識	吉 岡 博 人	(東京女医大教授)	¥ 70円	〒10円
医学統計の手引	近 藤 忠 雄	(前 厚生 技 官)	¥120円	〒20円
ポケット検査法	学 術 書 院 編		¥120円	〒25円
消毒と滅菌	八 田 定 義	(日 医 大 教 授)	¥ 90円	〒10円
優 生 保 護 法	谷 口 彌 三 郎	(医 博)	¥ 80円	〒10円

總 自 録 贈 呈

日 本 医 学 雜 誌 株 式 會 社

株 式 會 社 学 術 書 院

合 同 株 式 會 社 医 学 書 院

本 社

東京・本郷局私書函第5号 振替96693
電話小石川(85)0741・1201・1470・1778・4078・4079

分 室

東京都文京区駒込林町172番地
電 話 駒 込 (82) 0714・1605